

万全の感染対策で敬老会が開催されました。

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



9月21日の敬老の日、健育会グループ恒例イベントの「敬老会」が開催されました。今年は新型コロナ禍での開催になったため、ご家族や地域の皆さん、ボランティアなど外部からの参加を制限するなど、万全の感染対策をとりました。こうした制約の中、患者さんやご利用者さんに楽しい時間を過ごしていただくため、各病院・施設では例年以上に趣向を凝らして、職員手作りの企画を展開。動画投稿サイトを使った敬老会の中継やオンライン面会の実施といった、コロナ禍での新しい取り組みもみられました。

敬老会は、普段なかなかお見舞いに来ることができないご家族にもお越しいただき、患者さんとの楽しいひとときを過ごしていただきたいとの思いから開催しています。しかし、24回目となる今年は、残念ながらご家族の皆さんを招待することができませんでした。また、日頃から面会制限を行っているため、患者さんやご利用者さんにお会いいただく機会が少ない状況が続いています。敬老会に限らず、コロナ禍においてご家族の皆さんが安心でき、患者さんやご利用者さんが満足できる入院生活を送っていただくにはどうすれば良いかということを考え、病院・施設の運営に取り組んでまいります。

敬老会大賞

病院部門

熱川温泉病院

【選定理由】

ミャンマー人技能実習生による伝統舞踊など職員による催し物が多く、活気があった。また、敬老会の模様を、写真投稿サイトや動画投稿サイトなどSNSを通じて配信するといった、コロナ禍での新たな取り組みを多く試みていたため。



施設部門

介護老人保健施設しおん

【選定理由】

職員による「南中よさこいソーラン節」や「はねこ踊り」で全てのユニットを回って一体感を生み出し、お寿司の実演で利用者さんの笑顔を増やしていた。また、当日参加できなかったご家族とのオンライン面会という新たな取り組みも行い、コロナ禍による規模縮小を感じさせなかったため。



竹川病院



年は、新型コロナウイルス感染症予防の為、例年行っている1階エントランスでの賀寿表彰式典や職員によるソーラン節、外部のゲストによるイベント、1階や各階病棟で行っている患者さんのご家族をお招きしたイベントは自粛しました。

年に一度の大々的なイベントが縮小開催となり、患者さんにご家族がお会いする機会が減ってしまう中で、今実施可能なイベントを事前に患者さんにご家族に案内。希望のご家族に患者さん宛のビデオレターをご準備いただく企画を実施しました。ご家族から心のこもったビデオメッセージが届き、視聴された患者さんの中には感極まって涙される方もいらっしゃいました。また、職員特製の飾り付けを施した病棟で、患者さんの記念撮影も実施。その写真をご家族へお送りするという企画もありました。

賀寿表彰は、田中院長が対象者の所へ直接おうかがいして表彰し、記念品を贈呈。昼食は、栄養科が腕を振るった特製お弁当をご用意し、イベントと合わせて穏やかに盛り上がりました。

熱川温泉病院



今年は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、患者さんの安全を第一に考えた結果、ご家族の招待を見送りました。代わりに1階ロビーで実施したイベントの様様を各病棟へライブ中継し、さらに写真投稿サイトや動画投稿サイトでもライブ配信するという初の試みで、患者さんと来院できないご家族にお楽しみいただきました。病棟での昼食会のメニューは「お赤飯」「地魚刺身盛り合わせ」「鶏と金目鯛の二色揚げ」。皆さん、美味しそうに召し上がっていました。

昼食会の後は、恒例の長寿表彰式（102歳を筆頭に90歳以上の計21名）、「保育所児童 ザ・ヒットパレード of おんせんたまご」「REIマカ・ロアの祝賀のフラ」「うたのおねえさん 高瀬真由 ミニコンサート」に加え、イベントの目玉である「ミャンマー人技能実習生による祝いのダンス」「新人看護師によるバルーンアート」「リハビリスタッフによるウクレレ演奏」といった職員による出し物を披露。普段は病棟で看護・介護・リハビリを担当している職員が登場すると、患者さんから歓声上がり、大変盛り上がりました。



今年の「敬老祝賀会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、人数を絞って開催しました。ご参加いただいたのは、入院患者さんが9名（全て表彰者）、ご家族（1家族2名まで）が15名、ボランティア1団体が26名でした。式典は、最高齢101歳から喜寿77歳までの9名の患者さんが対象に。今回は規模を縮小した形になりましたが、アットホームな雰囲気の中で長寿のお祝いを行うことができました。

催し物は、感染リスクを抑えるため、エイサー石巻の演舞に絞り、5階屋外ウッドデッキで披露していただきました。当日は天候に恵まれ、踊り手の皆さんの熱気と太鼓の音に魅了された患者さんご家族、職員が一緒になって、大きな拍手を送りました。また、食事は3密を避けるため、個別にお食事を提供することになりましたが、ご家族には特製の折り寿司と和菓子、栄養科で手作りしたデザートを手土産としてお持ち帰りいただきました。当初は、表彰者のご家族に来院いただくことに心配されている面もうかがえました。しかし、当日の会場では3密を避ける対策を徹底して行い、ご安心していただけたと感じております。



今年は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、ご家族の来院やボランティアさんの歌や踊りの披露はなく、職員のみで企画・運営を行なうことに。一方で手作り感が出たため、とても良い敬老会になりました。

コロナ禍でご家族の面会ができない状況を考慮し、事前にご家族からメッセージカードを書いていただき、記念品とともに入院患者さんにお渡ししました。10時30分からは、1階外来待合いに喫茶コーナーをオープン。24名の入院患者さんに抹茶とお菓子のセットを楽しんでいただきました。その後、ご長寿表彰と、いわき湯本病院フラダンスチームによる5年ぶりのフラダンス披露、ご長寿早押しクイズなどを行い、最後に職員によるいわき踊りを披露しました。職員の踊りに合わせて体を動かさず方や歌を口ずさむ方もいて、お楽しみいただきました。

お食事には、敬老の日特別膳としてお赤飯、ステーキ、お刺身、お蕎麦、フルーツと、当院栄養科が心を込めて作った料理をご用意しました。ご家族との面会が叶わない中、入院生活が少しでも安らぐものになったのではないかと思います。

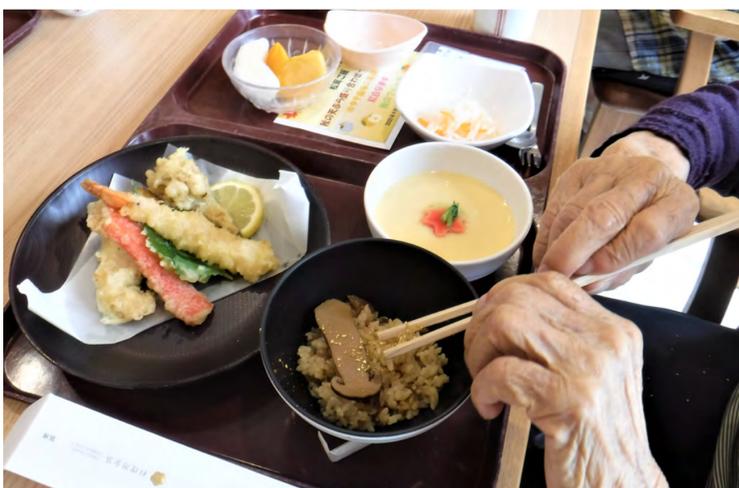


今年は新型コロナウイルス感染防止のため、ご家族や地域のボランティアさんなどの参加をご遠慮いただきました。8月に開催した夏祭りの反省点を生かし、休日の職員を中心にリハビリ活動の一環として企画を考え、開催しました。

会場は5階食堂や会議室、リハビリ室のブルゾーンで、3密を避けるようリハビリ部にて綿密なタイムスケジュールを組みました。各催し物ブースに、患者さんが利用される時間を伝え、患者さんにもご協力いただいて予定通り開催できました。催し物では、ストラックアウトやフィールドウ、射的、くじ引き、「花川商店」と称した昔懐かしの駄菓子店、喫茶コーナー（コーヒーや紅茶、スイーツを提供）などを出展。各病棟では、病棟スタッフがご家族からのメッセージカードを入れたプレゼント袋を各患者さんにお渡ししました。お食事は、料理長自らテレビ中継で本日のメニューや特に工夫して調理した内容、産地などを紹介。最高年齢106歳の患者さんにも、美味しそうにお召し上がりいただきました。また、食事中に職員有志グループ「はなウタリ」によるランチタイムコンサートをビデオ配信し、各階食事会場の環境を和ませてくれました。参加された患者さんには笑顔が溢れ、日頃のリハの成果を職員にアピールされる方や普段のリハビリ以上に張り切られた方もいらっしゃいましたが、事故はなく盛大に開催できました。



大泉学園複合施設 ねりま健育会病院／ライフサポートねりま



今回は感染対策を重視し、表彰式を中心にして開催しました。午前中は、2カ所に分かれて敬老の日レクリエーションを実施。1つは音楽レクリエーションで、もう1つは歌声体操レクリエーションでした。お昼は、当施設の栄養科特製の敬老会メニューに、金箔を散らした「ぱっकिन箸」を金沢から取り寄せて高級感を演出しました。ご家族が参加できないため、患者さんにご利用者さんに楽しく、美味しく過ごしていただけるようにスタッフ総出で参加し、だんらんのひとときを過ごしました。

メインイベントの表彰式授与と記念品の贈呈は、15時に開始。サプライズとして、ご家族から心温まる直筆の手紙を事前にご用意いただき、当日にお渡ししました。今回表彰の対象者は、複合施設全体で米寿7名、卒寿7名、百一賀の祝い1名、百二賀の祝い1名でした。表彰

された方々は、「うれしい」と笑顔を見せたり、泣いかれたりと反応はさまざまだったものの、皆さん一様に喜ばれていました。

最も印象的だったのは、当日の朝に否定的な発言をされていたご利用者さんが、ご家族からの手紙をお渡しすると泣いて喜ばれ、元気になったことです。表彰者以外で参加されたご利用者さんも、大きな拍手で盛り上げつつ大変楽しまれており、盛況のうちに1日を終えることができました。

石川島記念病院

オープニングとして職員手作りのみこしで病棟内を練り歩いた後、デイルームでイベントを開始しました。みこしのかけ声は、気分を高揚させる効果が大きかったです。患者さんと職員は、町内会「新佃」のおそろいのはんてんを着用。「中央区にお住まいの方」「はい！」といった職員の巧みな前振りもあり、お祭りが盛り上がりしました。

敬老会の前から、デイルームで嵐の「Wash your hands」のダンスの映像を流してご高齢の患者さんがノリノリで踊られ、笑顔あふれるイベントになりました。また、この日のために録画された佃中学校の和太鼓部の祭り太鼓の演奏が大画面に映し出されると、皆さん真剣に見入って大きな拍手が湧き、涙ぐむ方もいらっしゃいました。

リハビリテーション室に移動した後は、町内会からお借りした輪投げや風船釣りなどにもご参加いただき、真剣に風船を釣って笑顔がこぼれるといった普段とは違った雰囲気でのリハビリテーションも実施。最後は、院長が80歳以上の患者さんを対象に長寿を表彰。入院中の全患者さんに記念の品として「新佃・地藏図入りの祭り手拭」を進呈し、患者さん、職員ともに長寿を祝うことができました。

石川島記念病院では初めての試みだったにもかかわらず、職員たちが進んで夜遅くまで工作や飾り付けを行ない、新社会人の職員たちにとってはイベントの前に出て働くという良い経験になりました。また、多発性脳出血から戻ったばかりの患者さんに感情が宿ったり、高齢の患者さんたちがいつも増して活き活きと動かれたりする様子に、改めて気持ちの持つ力を感じました。



ライフケアガーデン熱川



今年は、太鼓演奏者や託児所の園児、地域の高校生など外部の方の演目を中止し、ご家族の参加もない中で「職員だけで何ができるだろう」というところからスタートしました。現在もなお、ご利用者さんはご家族と気軽に会えない状態が続いており、辛い気持ちでいることを日々感じていました。それは、ご家族も同様のはずです。

そこで、事前にご家族からお祝いの言葉を頂き、敬老会で代読しました。「会えない日々が続いていますが、コロナ禍が明けたら必ず会いにいきます」「会えないですが、毎月送られてくる写真を見て元気になっているとわかります。会える時まで元気で過ごして下さい」といった心温まる言葉やお孫さんからの手紙に対してうなずいたり、涙を流したりする方がいて、温かな時間が流れました。

その後、1年間の出来事を振り返り、コロナ禍が明けたらまたたくさんの思い出を作りたいという思いを込めて上映会を実施。自分の姿が映し出されると指をさして笑顔を見せたり、職員とその時の思い出を話されたりする姿が見られ、とても微笑ましい光景でした。

職員の出し物で2人羽織を行うと、職員の顔がクリームだらけになると手を叩いてお腹を抱えて大笑いされる方も。炭坑節音頭では、担当の職員だけでなく他部署の者まで全員参加し、大いに盛り上がりしました。昨年とは違う敬老会でしたが、入居者さんの幸せそうな笑顔を多く拝見することができ、参加している職員も幸せな気持ちになりました。

ライフケアガーデン湘南



テーマは「一笑一若」。1回笑えば1歳若返る！ コロナ禍でも笑って若返っていただく敬老祝賀会にするという思いを込めて設定しました。今年は新型コロナウイルス感染症予防対策を最優先にして、ご家族や外部の方々によるお祝いは中止せざるを得ませんでした。特定入居部門は2部制に、デイサービスは別会場にして時間をずらし、3密の状態を作らないように会場を常時換気。入場時のアルコール消毒に加えて、ご入居者さんと職員はマスク着用で開催しました。

会場の入り口周辺は、鶴と亀の壁飾り、バルーンアート、全ご入居者さんの笑顔の写真を使用した「笑顔の樹」などで装飾。会場内も、紅白幕とスタンドフラワー、バルーンアートで飾り付けました。昼食は、栄養科による手作りお祝い御膳で、盛り付けや味など大変好評でした。式典は、節目の方への記念品贈呈に加えて、職員による踊り「365歩のマーチ」「長生きサンバ」でご入居者さんを笑顔にすることができました。式典終了後には、会場入り口の鶴と亀の飾りの前でちゃんちゃんこを着用して、プロのカメラマンによる記念撮影も行いました。

ご家族へは、事前にWEB会議サービスを使ったオンライン中継をご案内し、当日は合計33の端末から接続。「楽しく見させていただき、ありがとうございました」といったメールも頂きました。





新型コロナウイルスの影響によりたくさんの制限がある中で、日頃ご協力いただいているお礼を込めて、今年のコンセプトは「感謝」でした。感染防止のため、入所と通所に分け、9月20日～22日までの3日間にわたり実施。外部ボランティアの参加は見送りました。9月20日は、入所のご利用者さんを対象に開催。長寿者披露や職員の藤井看護師による日本舞踊「祝いの舞」、祭り太鼓演奏など職員のみで出し物を実施し、ご利用者と入所職員が音色に合わせて地域の祭り気分を懐かしんでいました。通所職員による大道芸の披露では、笑いが起こりほのぼのとした雰囲気。今年は、ご利用者さんのご家族には参加をご遠慮いただいたため、メッセージカードをお願いしました。当日は名前を伏せてメッセージを読ませていただき、後日メッセージカードを額に入れて記念品の巾着と一緒にプレゼント。式典終了後は、参加者全員で記念撮影を行いました。9月21～22日は、通所リハビリテーションのご利用者さんが対象でした。前日と同じ出し物に加えて、昨年と当日の敬老会の写真をスライド上映で披露。これまでの取り組みについての思い出を振り返りました。式典終了後に参加者全員の記念撮影を行い、通所職員による手作りブローチと記念品の保険証入れをプレゼントして喜ばれました。



ケアポート 板橋



今年は節目の方が多く、古希1名、喜寿2名、傘寿5名、米寿7名、卒寿7名、白寿4名、百歳以上の長寿の方が6名と、総勢32名。「ありがとうございます。こんな表彰されたことなかったので、とてもうれしいです」と涙ながらに感激される方もいました。式典の様子は、ご要望があった11組のご家族に、初の試みとなるオンラインでご視聴いただいております。

昼食は、昨年好評だった天ぷらをメインに、炊き込みご飯、ごま豆腐、煮しめなどさっぱりした物をご用意しました。食後のデザートはビュッフェ形式で、バニラ・チョコ・抹茶のアイス3種とケーキからお好きなものを召し上がっていただきました。

式典後は、全ご利用者さんの表彰と、バッチにもなるキーホルダーにご本人の写真を入れてプレゼントしました。ご家族や催し物のボランティアの方が呼べないことへの不安はありましたが、例年だとこの様な時間は取れませんでした。また、職員による「ソーラン節」や巨大バルーンによる会場装飾など、今年しかできない式典を開催することができて、盛況のうちに終えることができました。



グループホーム かもめの家



午前中の表彰では、賞状と記念品授与、施設長及び所長からお祝いのあいさつを行いました。午後はケアポート板橋栄養課職員による「書道パフォーマンス」を披露。ご利用者さんと他の職員も巻き込みながら楽しんでいただきました。

初めてのリモート開催になりましたが、ご家族からは「元気な姿が見られて良かったです」「綺麗にお化粧していただき、ありがとうございます」「初めて書道パフォーマンスを見ましたが、迫力もあり凄かったです」「楽しませていただきました」といったお言葉を頂戴しております。ご利用者さんもパフォーマンス中は立ち上がって、食い入る様にご覧になり「凄いねえ」「上手いねえ」と楽しまれている様子でした。

ケアセンター けやき



今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、入居のご利用者さんのご家族に事前にお祝いのメッセージを作っていただき、アルバムにしてご利用者さんにお渡ししました。職員がメッセージを読んで差し上げると、笑顔で大変喜ばれていました。また、WEBによる遠隔面会をご利用されたご家族には、直接メッセージをお読みいただきました。

昼食は、厨房スタッフが腕を振った「御祝い御膳」をお召し上がりいただきました。とても豪華で見た目も味も素晴らしく、ご利用者さんには特に「松茸ご飯」が好評でした。

午後は、密にならないよう各階のリビングにて式典を開催。節目の方を表彰しました。最後は、職員による余興で「ソーラン節」を披露しました。ご利用者さんは、手拍子をされたり、中には一緒に踊られたりする方もいて、感染対策にご配慮されつつ、楽しいひとときを過ごしていただきました。

ひまわり在宅サポートグループ ひまわりデイサービスセンター



今年は、9月14日～21日までを敬老週間として、各日昼食に「敬老会御膳」の提供など行いました。21日には「ひまわり敬老感謝祭」を開催。百寿から古希まで節目を迎えられた9名の方を表彰し、記念品をしました。また、祝辞はビデオメッセージなど活用し、コロナ禍でも参加できる形式をとりました。

催し物は、職員による「YOSAKOI」を披露。普段は見られない職員の姿に、歓喜の余り涙するご利用者さんもいて、大盛況で終えることができました。

介護老人保健施設 しおん

今年は、疫病退散を願って職員がアマビエを製作。正面玄関やユニット入り口や壁などしおん内のさまざまな場所に出現させ、色々な姿をお見せしました。

ご長寿表彰対象のご利用者さんには、賞状とお祝いの花を贈呈しました。また、対象ではない方々にも、お祝いの花やしおんの名入りタオルをお贈りしております。さらに、今年は石巻市立湊小学校の生徒さんによる手書きメッセージカードもご利用者さんに配布。涙を見せるご利用者さんもいて、大変喜ばれた様子でした。食事には、職員による実演のネタ炙りとそれを握った寿司などお祝い御膳をご用意。皆さん「美味しい」といつもよりも早く完食されていました。

コロナ禍が収束せず、感染予防の観点から今年はお家族の招待はできませんでした。表彰対象のご利用者さんのお家族には、制限時間内での事前の面会をお願いし、記念写真を撮影。また、遠隔地からでもご利用者さんのお顔を見られて、会話もできるように「メルタスファミリー」やWEB会議サービスを導入。当日は2組のオンライン面会を試験的に行いました。

今年はボランティアを招待できないため、余興は職員による「よさこいソーラン」と「はねこ踊り」「伴奏ありの合唱」を行いました。この度、衣装の長ばんてんを新調しており、8月の夏祭り以上に力が入りました。以前踊ったことがあるのか、音楽と共に身体が動き出し、一緒に踊り出すデイケアのご利用者さんもいました。



喬成会

オアシス21



今年のテーマは「北海道スタイル そして絆」。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご家族や外部のボランティアの方々をお呼びできず、ご利用者さんと職員だけの感謝祭（敬老会）になりました。とはいえご家族との絆も大切と考え、事前にご利用者さんからご家族宛に絵手紙をお送りし、ご家族から頂いた敬老の日のお祝いメッセージをフロアに掲示。ご利用者さんからは多くの喜びの声があり、何度も読み返す姿も見られました。また、「ご利用者の笑顔のフォトコンテスト」の写真や作品、鶴と亀の装飾なども施して、華やかな雰囲気を出しました。

昼食では、ズワイガニやいか、ホタテ、エビなど使った豪華な「海鮮舌鼓弁当」を堪能していただきました。午後からは、介護職員による「獅子舞演舞」「鶴亀音頭」やリハビリスタッフ6名による「パブリカダンス」、女性職員の「太鼓演奏」などを披露。太鼓演奏や獅子舞演舞では、ご利用者さんも手作り太鼓で参加され、アンコールとたくさんの拍手を頂戴しました。記念式典は、白寿10名 米寿4名をお祝い。ご家族からのメッセージを読み上げ、ささやかな記念品も贈呈しました。感動し涙するご利用者さんが多く、職員も胸を打たれた瞬間でした。余興の最後には、フォトコンテストのグランプリを発表。選ばれたご利用者さんは「まさか選ばれるとは思わなかった」と最後まで笑顔が輝く感謝祭になりました。



花びりか



皆さんが毎年楽しみにされている栄養科特製のご昼食には、季節の食材である栗や南瓜に加えてエビやサーモンなども使用した彩り豊かな「感謝祭お祝い御膳」をご用意しました。感謝祭は、サービス付き高齢者向け住宅花びりかと1階のデイサービス、看護小規模多機能ナースイン花びりかの3会場で開催。

サービス付き高齢者向け住宅花びりかでは職員によるマジックショーや笑いありの大道芸を披露し、1階のデイサービスはバイオリンの演奏会や歌謡ショーを実施、看護小規模多機能ナースイン花びりかでは迫力ある和太鼓の披露など、各会場で趣向を凝らしたイベントを楽しんでいただきました。また、全会場で、敬老の日のお祝いとして長寿のお祝いと記念品を贈呈。ご家族から頂いたメッセージに涙ぐまれる方もいらっしゃいました。

介護老人保健施設ライフサポートひなた



今年は、新型コロナウイルス感染予防のため、ご家族やボランティアを受け入れることができない中での敬老会になりました。今日という喜ばしい日を迎え、傘寿1名、喜寿1名、米寿1名の祝いの方とご入所者されている皆さんの更なるご長寿を願い、例年にも増して職員の方で喜んでもらおうと、職員一同頑張りました。

昼食は「お祝い膳」で、お赤飯を含めて13品を召し上がっていただきました。式典では、ひなたの名司会者が祝いの方にとっぴりとインタビュー。ご利用者さんの声に誘導されて職員が二人羽織を行うなど、今回は例年以上に職員とご利用者さんが一体となった式典にすることができました。

